

愛知県に於ける「癩」関係文献目録（稿）

Bibliography of Leprosy related article published in Aichi prefecture (draft)

名古屋大学附属図書館情報管理課資料管理掛

Nagoya University Library

島 岡 眞

SHIMAOKA, Makoto

Abstract

Aichi Prefecture was generally known as a region with many cases of Hansen's disease, or leprosy ("rai"). This bibliography investigates how Hansen's disease used to be treated, studied and coped with by the medical world in Aichi Prefecture, through the medical journals published in the pre-war days (up to 1945).

Investigation was made into the articles included in (1) the research journals issued by several schools which later evolved into the Medical School of Nagoya University; (2) the journals of Kooseikan Hospital, one of the then representative private institutes for medical treatment and research; (3) Kansai-Ikai-Jihoo, a medical periodical which was widely in circulation in Aichi and Kansai area. In addition, (4) the articles referring to the cases of Aichi Prefecture extracted from Rai-bunken Mokuroku (Hansen's disease bibliography) were compiled, too.

Since the judicial decision and the compromise of last year, on the case of governmental compensation to the Hansen's disease patients, efforts to reconsider this disease have been being made everywhere by individuals as well as by administration. The author should feel rewarded, if this bibliography should prove helpful to such efforts.

本目録は、かつて癩（ハンセン病）の多発地ともいわれていた愛知県における同病に関する研究や動向を戦前（1945年）までの医学関係雑誌等から調査したものであり、先にまとめた「小笠原登関係文献目録」（注1）の姉妹篇をなすものである。なお、この目録は日本学術振興会の平成13年度科学研究費補助金・奨励研究（B）「愛知県におけるハンセン病の動向に関する文献学的研究」の成果報告でもある。

癩（ハンセン病）が“忌まわしい病気”として社会から拒否されていた戦前、その後治療法が確立した戦後も隔離政策が続き、漸くくらい予防法が廃止されたのが平成8年である。いまでは、

一般には無縁となったかのような癩（らい、あるいはハンセン病と書くのが現在では一般的であるが、本来この文字に託された歴史的経緯から本稿ではこの表現を使うことにする。）であるが、愛知県においては近い時代（明治期）まではかなり身近な問題であったようである。本目録に何度か登場し、愛知医学校の二代目の内科教授で、神経内科の先駆者でもある川原汎の著『内科彙講』（明治30年刊）では「尾参ノ如キハ却テ其右ニ出ツルカ如シ。殊ニ名古屋及之カ附近ノ村落ハ極甚シ」（p461頭注）と、九州に次ぐ多癩の地と述べている。確かに、内務省の大正8年の統計をみても全国有数の癩患者数比を示している（文献No.30）。昭和

10年の統計で漸く、全国平均を下回る患者数比を示すようになるが、そこに至る先人の努力を蹟づけてみようとしたのが、本目録作成の第一の目的である。本学医学部の前身である愛知医学校では、我が国最初の近代皮膚科学の紹介書である『皮膚病論一斑』を著したお雇い外国人ローレツの下で診療・教育の著しい進展を見せ、明治10年代には『医事新報』という臨床知見等をまとめた医学雑誌を継続して刊行している。また、大正末には後の癩研究の第一人者・太田正雄（木下空太郎）を愛知医科大学の皮膚泌尿器科の教授として招いた歴史を有している。

本目録作成には、本学医学部関連の雑誌として明治11年以降の上記『医事新報』（注2）を初めとして、『愛知医学会雑誌』『中央医学会雑誌』『名古屋医学会雑誌』（注3）、『同窓会雑誌』『校友会雑誌』『鶴天学友会報』（注4）を、また、地元の医学雑誌で、医学校と診療・研究で競い合った私立病院・好生館の『好生館医事研究会雑誌』（注5）を明治27年から、愛知県の刀圭界を代表する『関西医界時報』（注6）を明治45年から、それぞれの目次部を悉皆調査した。これらの雑誌以外の文献は『らい文献目録』社会篇、医学篇（注7）及び補遺篇から愛知関係分を抽出した。但し、個別文献の原資料での確認作業はされていないこと、また、欠号分の未調査や、『らい文献目録』からの抽出もれの可能性と併せ、医学の専門外の者による調査作業であることをお断りしなければならない。

調査の手段・方法としては、対象の雑誌が戦前の劣化資料であることを考慮し、特に『関西医界時報』については現物からの電子複写をできる限り避け、ハンディスキャナーを使って雑誌の目次部の読み取り作業を行い、文字読み取りソフトを使ってそのデータ化を進めた。

文献目録は後述のとおりであるが、これを概括すると以下のようにいえよう。

愛知県における最初の医学雑誌であり、明治11～15年の間刊行された『医事新報』には記載を見ることができなかった。最初の記載は明治28年を待たなければならない。明治期は公立の医学校に比して、民間の好生館病院の方がこの病気への対応は強かったように見える。昭和に入り全国で「癩」の療養所が整備されるに従い、この地における治療・研究論文は減少していく。その一方で、『関西

医界時報』における記事を見ると、隔離政策や無癩県運動等の「癩」に対する愛知県における当時の意識・対応が読み取れる。

なお、この『関西医界時報』は昭和17年10月を最後に改題されたようであるが、後継誌は未だ確認ができていないためこれ以降の記事からの調査は今後の課題である。また、この雑誌の目次データベース化はその作業が終了次第、公開を検討する予定であるが、併せて、先に述べたようにこの雑誌は劣化が進んでいる上に利用も多い資料であり、東海地域のみならず全国的にも所蔵が限られているだけに、その保存対策が急務であることを提起するしだいである。

献辞

本目録の作成に当たり、多くの方々のご助言・ご協力を頂き、ようやく陽の目を見ることができると感謝いたします。とりわけ科研申請の推薦人となって頂いた医学研究科の山内一信先生、先の「小笠原目録」以来様々のアドバイスを頂戴した名誉教授の高橋昭先生、英文抄録で一方的にお世話になった言語文化部の加藤貞通先生のお名前を挙げることで感謝の気持ちに換えさせていただきます。

注1：「小笠原登関係文献目録」；愛知県甚目寺町出身で終生ハンセン病治療に献身し、戦前から絶対隔離主義に反対してきた故小笠原登医師の著作、関係文献202点を採録。2000年8月作成、未発表、真宗大谷派同和对策本部等へ提供。

注2：『医事新報』；愛知県公立医学校から明治11～15年刊行、全54号
島岡「資料紹介『医事新報』」名古屋大学史紀要 第1号 p153-175)

注3：医学校及びその継続校から刊行
『愛知医学会雑誌』；明治27～30年、大正11～昭和10年
『中央医学会雑誌』；明治30～大正10年
『名古屋医学会雑誌』；昭和11～26年

注4：医学校等の校友会刊行の学術・広報誌紙
『愛知県立医学校（県立医学専門学校）同窓会雑誌』；明治33～大正9年
『鶴天学友会(会)報』；大正9～昭和10年
『名大学友会報』；昭和10～14年
『名(帝)大医学部学友会報』；昭和14～15年

注5：『好生館医事研究会雑誌』；名古屋の私立病院好生館刊行

2 (1)(明治28年1月)～48 (1/3合併号)(昭和17年12月)

注6：『関西医界時報』；関西医界時報社（名古屋）刊行
医学部分館所蔵；1 (明治45)-35, 38-44, 46-89, 91-354, 356-461, 464 (昭和17)

注7：『らい文献目録』；長島愛生園、昭和32年刊行
<らい予防法>発布50周年記念事業として、明治以降のらい関係文献を網羅的に抄録・解説を付けて採録。
社会篇；657頁、12部門=1,708文献、医学篇；814頁、20部門=2,450文献

なお、皓星社から1999年「雑誌記事索引集成」の1つとして復刻、その補巻からも採録。

愛知「癩」関係文献

HI4.3 島岡作成

著者	文献名	掲載雑誌	巻(号)	頁	刊年月	注記
1 五味久吉	癩病ノ結核阿曹篤皮下注射療法	愛知医学会雑誌	(8)	8-	明治28.9	
2 抄録	内臓癩ノ追加	好生館医事研究会雑誌	3(11/12)	25	明治29	
3 Koch(抄録)	すかんぢなびしんニ於ケル癩病ノ予防及其結果併ニ学説	好生館医事研究会雑誌	3(11/12)	38	明治29	
4 Neumann(抄録)	癩病ノ予防	好生館医事研究会雑誌	3(11/12)	38	明治29	
5 Ehler(抄録)	癩病ノ原因的研究	好生館医事研究会雑誌	3(11/12)	38-	明治29	
6 川原 汎	更紗染中毒皮相を呈したる多発神経炎癩の一例	愛知医学会雑誌	(11)	8-	明治29.3	
7 川原 汎	両側顔面神経麻痺(神経癩)の一例	医事新聞	(502)		明治30	
8 川原 汎	更紗染中毒皮相を呈したる多発神経炎癩の一例	好生館医事研究会雑誌	3(4)	1	明治30.4	
9 川原 汎	更紗染中毒皮相を呈したる多発神経炎癩の一例	中央医学会雑誌	(20)	1-	明治30.9	
10 雑報	布哇ノ癩病島	好生館医事研究会雑誌	4(6)	33-	明治30.12	
11 小嶋浦三郎	癩ト結核ニ就テ	中央医学会雑誌	(25)	5-	明治31.9	
12	癩病ノ動物接種試験	中央医学会雑誌	(30)	54-	明治32.6	
13 伊藤端良	一ヶ年半に於けるレプラの統計	好生館医事研究会雑誌	8(2)	53	明治34.5	
14 川原 汎	結核及癩病防疫策ニ就テ	中央医学会雑誌	(45)	1-	明治35.2	
15 川原 汎	結核及癩病防疫策ニ就テ	医学校同窓会雑誌	(6)	19-	明治35.3	
16 伊藤端良	癩の急性発作に就テ	好生館医事研究会雑誌	9(1)	80	明治35.3	
17 小嶋浦三郎	顔面神経及動眼神経麻痺患者(癩性)ノ一例	中央医学会雑誌	(46/47)	74-	明治35.7	
18 アルベルトブレン	カメルン地方ノ癩類似ノ疾患	好生館医事研究会雑誌	11(1)	37-	明治37	Arch.Dermatol.Syphilis. 34(1903)
19 KIM生(抄録)	レプラ療法	医学専門学校同窓会雑誌	(17)	84-	明治37.5	
20 森川恭太郎	癩性喉頭麻痺ノ一例	中央医学会雑誌	(64/65)	30-	明治38.10	
21 フォレットボカ	癩ニ就テ	好生館医事研究会雑誌	11(1)	39-	明治39	J.malad.cutan.Syphil.1903
22 Rost,E.R.	癩病ノ病理及療法	好生館医事研究会雑誌	12(3/4)	86-	明治40	Brit.Med.J.11(1905)

23	板津七三郎	「レプラ」ト光線トノ関係	中央医学会雑誌	(92/94)	97-	明治 43.10	
24	横井鉉太郎	河豚毒素に就て	好生館医事研究会雑誌	18(5/6)	115	明治 44.10	
25	Courtney, J	癩病ノ沃度ホルム静脈注射	好生館医事研究会雑誌	21(5)	55-	大正 3	Lancet.1914
26	岡本衛、兵藤晋	舌賀氏液を以てする癩療法	細菌学雑誌	(245)	420	大正5.3	愛知医専
27	竹内讓 (抄録)	癩神経ノ組織研究	校友会雑誌	(37/38)	55-	大正5.5	
28	竹内讓 (抄録)	癩ノ神経ニ就テ	校友会雑誌	(40)	13-	大正5.11	
29	内務省衛生局	「癩療養所収容癩患者統計」				大正6	
30	内務省衛生局	「癩患者統計 大正8年3月31日」			40 p	大正8	
31		大正5-7年三ヶ年間に於ケル癩患者	好生館医事研究会雑誌	26(1)	81-	大正8	
32	内務省衛生局	「各地方ニ於ケル癩部落、癩集合地ニ関スル概況」				大正9	
33	浅野武一	愛知県を中心としての癩の分布区域及其統計的観察に就て	皮膚科泌尿器科雑誌	20(9)	21-	大正9.9	愛大皮膚
34		理解なき村民の癩病院反対暴動	関西医界時報	(104)	42-	大正12.9	
35	瀬木本雄	前輩膜の「レプラ」腫に就て	日本眼科学会雑誌	27(11/12)	997-	大正12.11	愛大病理
36		癩療養所の大拡張-二府十県衛生課長会議で-	関西医界時報	(153)	14	大正13.9	
37	桜井方策	癩の血清反応	関西医界時報	(159)	40	大正14.3	第25回日本皮膚科学会総会演説
38	伊藤斯朗	癩患者における脂肪新陳代謝	関西医界時報	(159)	40	大正14.3	第25回日本皮膚科学会総会演説
39	野島泰治	癩の血清反応特に其の抗原に就て	関西医界時報	(159)	40	大正14.3	第25回日本皮膚科学会総会演説
40	石津作次郎	国立癩療養所の長島愛生園を訪ひて(下)	関西医界時報	(248)	41	昭和7.8	
41	中部日本社会事業連盟他	中部に癩療養所設置建議	レプラ	4(4)	100	昭和8.7	
42	清水圭三	老烈氏講義皮膚病論一斑に就いて 1	鶴天学友会報	(1)	3	昭和8.7	
43	愛知県警察部衛生課	「癩予防思想普及概要」	パンフ			昭和8.8	
44		癩患解放問題 大阪外島保養院の出来事	関西医界時報	(261)	20	昭和8.9	
45		知事癩療養所視察 不意に訪れて痛い処一席	関西医界時報	(262)	45	昭和8.10	

46	清水圭三	老烈氏講義皮膚病論一斑に就いて 2	鶴天学友会報	(3)	3	昭和8.11	
47		癩予防座談会	関西医学界時報	(271)	49	昭和9.7	
48	清水圭三	癩病院見学記	鶴天学友会報	(7)	7	昭和9.7	
49	田中謙吉	名古屋医科大学皮膚科泌尿器科教室に於ける既往23年間(明治43年-昭和7年)の癩の統計的觀察	愛知医学会雑誌	41(10)	1637-	昭和9.10	名大皮膚
50		癩療養所移転反対	関西医学界時報	(275)	9	昭和9.11	
51		癩患者専門刑務所	関西医学界時報	(280)	30	昭和10.2	
52	ヒョウケツツ	第一愛知寮と鯨南寮施工式	愛生		10	昭和10.3	
53		外島癩療養所移転 瀬戸内海沖の鴻島へ	関西医学界時報	(283)	6	昭和10.4	
54		癩療養所移転に横槍	関西医学界時報	(284)	8	昭和10.4	
55	ニユース	第二愛知寮、青和寮和気郡下青年団一握の米を以て贈る	愛生		52	昭和10.6	
56	反響	愛知県知事夫人篠原雪子	愛生		28	昭和10.7	
57		癩療養所移転決定	関西医学界時報	(294)	19	昭和10.9	
58	通信	溝口警部補「名古屋」	愛生		35	昭和10.11	
59		日本癩学会総会	関西医学界時報	(299)	5	昭和10.12	
60	内務省衛生局	「癩患者ニ関スル統計 昭和10年調査」				昭和11	
61		十坪住宅建築地鎮祭(愛知県西部方面委員会から)	愛生		扉	昭和11.5	
62		愛知県五ヵ年計画で無癩県運動	愛生		扉	昭和11.5	
63	ニユース	愛知県下十坪住宅運動	愛生		5	昭和11.6	
64	通信欄	愛知県方面委員森春太郎	愛生		18	昭和11.7	
65		岡山癩療養所争議 - 赤化分子の煽動に依るか -	関西医学界時報	(317)	30	昭和11.9	
66		癩患者の刑務所一新設を内、法相に陳情真に注目すべき其趣旨 -	関西医学界時報	(320)	10	昭和11.10	
67		救癩施設座談会 - 府県立療養所を国立に -	関西医学界時報	(321)	24	昭和11.11	
68		三井報恩会が癩救済に209万円寄附	関西医学界時報	(323)	4	昭和11.12	

69	横田 忠郎	救癩事業に就て望む		関西医界時報	(342)	6	昭和12.9	
70	清水圭三	癩の予防		名大校友会報	(30)	18	昭和13.3	
71		日本癩学会総会		関西医界時報	(368)	16	昭和13.10	
72		佐多博の朝鮮癩談		関西医界時報	(371)	22	昭和13.12	
73	清水圭三	名古屋医科大学皮膚科泌尿器科に於ける28年間の癩患者の統計的觀察		名古屋医学会雑誌	49(1)	115-	昭和14.1	名大皮膚
74	清水圭三	生肝で癩病が治るか		臨床の皮膚泌尿と其境域	4(1)	71-	昭和14.1	名大皮膚
75	清水圭三	癩と戦争		名大校友会報	(41)	19	昭和14.2	
76		日本癩学会総会		関西医界時報	(377)	30	昭和14.3	
77	光田健輔(講演)	「癩」問題に就いて 1		名帝大医学部学友会報	(43)	8-	昭和14.4	
78	光田健輔	愛知県の無癩運動		公衆衛生	57(5)	318-	昭和14.5	
79	光田健輔(講演)	「癩」問題に就いて 2		名帝大医学部学友会報	(44)	7	昭和14.5	
80	清水圭三	泰西名画に現れたる癩病 [1]		臨床の皮膚泌尿と其境域	4(6)	56-	昭和14.6	
81		日本癩学会総会		関西医界時報	(386)	5	昭和14.7	
82	光田健輔(講演)	「癩」問題に就いて 3		名帝大医学部学友会報	(46)	4	昭和14.7	
83	清水圭三	泰西名画に現れたる癩病 [2]		臨床の皮膚泌尿と其境域	4(7)	67-	昭和14.7	
84	瀬木、本立	小島の春		関西医界時報	(387)	14	昭和14.8	
85	A 生	癩の恐怖症		関西医界時報	(390)	11	昭和14.9	
86	清水圭三	癩の史的考察		医学ペン	5(1)	44-	昭和15.1	
87		本年の日本癩学会		関西医界時報	(400)	21	昭和15.2	
88		九州癩療所国営移管運動		関西医界時報	(403)	5	昭和15.4	
89		公立癩療養所移管		関西医界時報	(407)	19	昭和15.6	
90		癩学会日程定む		関西医界時報	(408)	8	昭和15.6	
91		九州癩療養所国立移管		関西医界時報	(422)	26	昭和16.1	

92	光田健輔	癩根絶に関する所見	診療と経験	5(11)	1138-	昭和16.1	
93		草津の癩部落解消 - 専属医鶴田一郎氏表彰 -	関西医学時報	(431)	11	昭和16.6	
94		癩予防功労者表彰	関西医学時報	(432)	10	昭和16.6	
95		癩療養所国立移管	関西医学時報	(433)	12	昭和16.7	
96		救癩功労者表彰式	関西医学時報	(435)	20	昭和16.8	
97		癩医会の論争予想	関西医学時報	(438)	29	昭和16.9	小笠原
98		果然癩学会で論争	関西医学時報	(442)	22	昭和16.11	小笠原
99	内務省衛生局	「癩患者ニ関スル統計 昭和15年調査」			80 p	昭和17	
100		癩療養所課長会議	関西医学時報	(458)	14	昭和17.7	
101	光田健輔	愛知県の無癩運動に就て	愛生			昭和18.8	